厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等克服研究事業
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン：治療アドヒアランスに関する解説の作成

研究代表者　　加藤則人　京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学　教授
研究協力者　　益田浩司　京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学　准教授

研究要旨

本研究の目的は、アトピー性皮膚炎の診療に携わるさまざまな地域のさまざまな診療科の医師が使え、すべての年齢層の患者の診療に必要な内容や患者や家族などの臨床の場での意思決定の参考に資するために必要な内容を含むアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することである。

本ガイドラインでは、クリニカルクエスチョンに対する推奨度の設定に加えて、より詳細な情報を使用者に提供してアトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めるため、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することにした。

われわれは、「アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス」に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに解説を作成した。

A. 研究目的

アトピー性皮膚炎の診療を均てん化し、国内のすべての地域でより多くの患者が良質な医療を享受できるようにするためには、皮膚科医、小児科医、アレルギー科医、総合診療医等すべての医師や患者が活用できる診療ガイドラインを作成することが望まれる。

本ガイドラインでは、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することによって、より詳細な情報を使用者に提供し、アトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めることを目的とした。

B. 研究方法

アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランスに関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに、診療上重要な情報について解説文を作成した。作成した文章は、研究班員による議論と推敲を得て、最終版を作成した。

C. 研究結果

慢性疾患であるアトピー性皮膚炎の診療では、患者や養育者が疾患の病態や治療の意義を十分に理解して積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って積極的に治療を実行し、粘り強く継続する姿勢、すなわち治療のアドヒアランスを高めることに医療者が配慮することが大切であることが分かった。

治療アドヒアランスに関連する因子として、①患者に起因する要因、②疾患に起因する要因③治療に関する要因、④医療者に起因する要因、⑤社会・経済的な要因などがあった。患者に起因する要因としては、多忙、医療や服薬に対する信念などがあり、治療に関係する因子として

は、一般に煩雑な治療法、副作用の多い治療法、高価な治療法などがアドヒアランスの低下に関係することが分かった。それぞれの治療法のメリットとデメリットに関する分かりやすい説明を行うことは、アドヒアランスを向上させる意味でも重要であると考えられた。医療者に起因する要因としては、医療者と患者間の信頼関係、疾患や治療法に関する分かりやすい説明、継続的な情報提供や支援などがアドヒアランスの向上につながること、社会・経済的要因としては、家族の協力やベビーシッターなどの人的サポートなどがあることが、それぞれ分かった。

D. 考察

アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランスを向上させることは、治療効果を高める上で極めて重要な課題である。医療者は、服薬やスキンケアなどの必要性を伝えるとともに動機づけを行うことが大切である。また、医療者は、アドヒアランスを高めるために、上記の要因の中で実行が可能なことから取り組んで行くことが大切である。

E. 結論

「アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス」について解説する文章を作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

＜論文発表＞

なし

＜学会発表＞

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

   なし

2. 実用新案登録

   なし

3. その他